

## 東京農業大学 拓友会ニュース

第32号・2016年発行

発行所 東京農業大学拓友会

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

TEL.03-5477-2408 FAX.03-5477-4032

e-mail : takuyu@nodai.ac.jp

<http://www.nodai.ac.jp/int/original/about/index.html>

### アメリカで農業を学ぶ

国際農業開発学科 42期 揚原 晋輔

現在の勤務地：フロリダ大学

(Gulf Coast Research and Education Center,  
University of Florida)



私は2001年に農大の国際農業開発学科を卒業し、それから今まで15年間、アメリカの大学で農業を学んできました。現在はフロリダ大学のAssistant Professorとして、植物生理を専門に様々な研究をしています。

農大に入学したときは、世界第1位の農業輸出大国であるアメリカの農業を勉強したい、そして農業の発展を手助けする仕事をしたいという二つの希望がありました。といっても具体的な計画があるわけではなく、漠然としたものです。しかし一つ目の希望は、3年生の時にアメリカに短期留学をしたことにより強くなり、卒業後に再度留学するきっかけになりました。修士課程はミシガン州立大学で土壤学を、博士課程はテキサスA&M大学で植物生理学を専攻しました。また、修士課程の専攻中にミシガン州立大学で土壤や植物サンプルを分析するアルバイトをし、博士課程に進学する前には、テキサスA&M大学の農業試

験場で研究員として働きました。これらの仕事で得た実践的な知識・スキルは現在でもとても役に立っています。

2014年の9月、博士課程を終えると同時にフロリダ大学の教員に着任しました。アメリカは様々な農業分野で世界をリードしていますが、労働者不足、価格競争、干ばつ、病害虫の被害など問題も多くあります。これらの問題を解決するためには、さらなる栽培技術の効率化、機械化、品種改良などが必要です。現在、このような解決策を見いだすため、様々な分野の専門家と共同研究を行っています。例えば、育種家と行っているのは、機械で収穫できる生食用トマトの品種開発・栽培方法の確立の研究。分子生物学者としては、環境ストレスに対する生育制御のメカニズム・植物ホルモンの機能の研究をしています。

研究以外のもう一つの大事な仕事は農家及び大学で働く農業指導員の教育・指導です。日本では農業専門家が行っている仕事だと思います。農家の人の要望・期待に応えないといけないため責任ある仕事ですが、同時にやりがいもあり、研究の課題も見つけやすくなります。

農大に入学したとき抱いていた二つの希望、農業の発展を手助けするということが、渡米してから15年経ちようやく実感できるようになりました。生産性の向上、効率化、水資源の節約、食の安全性など、具体的な課題も見えるようになりました。発展することは改良の繰り返しです。課題がなくなることはありません。アメリカだけではなく、世界中で貢献できるようこれからも努力をしていきます。

### 南米ボリビア・ウユニ塩湖で観光と環境保全の両立を目指す

開発学科 50期卒 地域農業開発研究室  
本間 賢人

大自然の残る南米大陸、その自然は世界の人々を魅了し毎年沢山の観光客が訪れます。しかしながら、観光客の増大は現地の人々の雇用を生み出し経済的な豊かさをもたらす反面、自然破壊の原因の一つとなっています。

南米の自然保護に携わりたいと18歳の時に思い、東京農業大学国際農業開発学科に入学、地域農業開発

研究室に所属しました。学生時代にはエクアドルの山岳地方地域活性化を研究対象とし、自然保護と現地住民の所得向上について研究を行っていました。その時に感じた南米は、私の将来を決定づけ



ベネズエラのジャングルにて(左が筆者)

るほど、とても印象に残る、温かい思い出となり、今もなお鮮明に覚えています。

現在は南米環境保全団体Projecto YOSIの設立及び代表を務める中、ボリビア国立サンアンドレス大学環境保全プロジェクト客員講師を兼任しています。Projecto YOSIでは南米の問題を解決するにあたり、ツアーボランティア・プロジェクトを活動の柱とし、持続的にアプローチするために非営利的活動とビジネス的活動を同時にっています。ツアーアクティビティでは南米の魅力を伝え、現地住民との交流を重視し、ツアーフォトの一部をプロジェクトの活動資金として運用しています。ボランティア活動ではマンパワーが必要な地域へボランティアを派遣し、双方にとって有益な活動を行っています。プロジェクト活動では現地の問題にマッチしたテクノロジーまたはアイデアを導入し、問題解決に対して直接的に、そして持続的にアプローチすることを目的としています。対象地域はボリビア・ウユニ塩湖、エクアドル・インタグ地方、ベネズエラ・カナイマ国立公園の3カ国です。



ボリビア・ウユニ塩湖

現在ボリビア・ウユニ塩湖にて環境教育リサイクルセンターの設立に向けて、ボリビア環境省、ウユニ市役所、ボリビア国立サンアンドレス大学と官民学共同プロジェクトを行っています。ウユニ塩湖はボリビアでも屈指の観光地となっており、毎年多くの観光客が訪れます。しかし、その美しい景色とは裏腹に、ごみの投棄問題が深刻化しております。

ウユニ塩湖の標高は3600mと高く、ゴミ焼却場がないため、すべてのゴミは埋め立てられます。しかし、埋め立てられたゴミ



ウユニ塩湖に放置されたゴミ



は極度に乾燥した環境、そして時折吹く強風によって再び地表へ顔を出します。その影響はウユニ塩湖の汚染だけではなく、自然環境への負荷、現地住民への健康被害とつながっています。またウユニ塩湖でガイドを行っている時に現地の方が言った「あなた達は来てすぐ帰る、私達は一生ここに住むのです。」その言葉が胸に刺さり、環境問題に対してアプローチするために今回のプロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトは「環境保全・環境教育・現地還元」を軸としており、「現地主導・現地主体」の考えを最も重要な要素としています。環境教育リサイクルセンターの仕組みはソーラーパネルから小型油化装置の電力を貢献し、プラスチックゴミを油化装置により混合油(ガソリン・ディーゼルなど)として抽出します。そして、その混合油を家庭やディーゼル車、農耕車両のエネルギーに利用しています。この一連の流れは現地住民の経済的負担の軽減(現地還元)、さらに「ごみ=資源」という考え方の変化を起こし(自然保護・環境教育)、プラスチックごみは分別され小型油化装置へといった流れを生み出すことができます。このプロジェクトは「環境保全・環境教育・現地還元」を同時に実現する可能性を秘めています。

そして将来的にはボリビアの掲げる観光立国として一翼を担うことのできる「観光と環境を両立したモデルケース」として、ボリビア国内に広まり、そしてボリビアの各観光地がそれぞれの問題に合わせた取り組みを行い、環境保全国家ボリビアとして世界的な注目と観光国としての国際的競争力を強めることを目指しています。



油化装置のデモンストレーション



プロジェクトの説明会

## 第58期総会および懇親会のご案内

第58期の拓友会総会および懇親会を次のとおり開催致します。

今年度も収穫祭期間中に開催します。数々の特別イベントも計画されていますので、万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

**なお、平成28年の収穫祭は10月28日(金)より10月30日(日)に開催されます。**

- 総会**
1. 日時 平成28年10月29日（土）午前11時より12時まで
  2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科 共通利用室

- 懇親会**
1. 日時 平成28年10月29日（土）正午より
  2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科 共通利用室
  3. 会費 4千円（配偶者、子供の同伴歓迎致します。配偶者および子供は、一人につき2千円）

どうぞ皆様お越し下さい。なお、懇親会のみの参加も歓迎します。お問い合わせはこちらに連絡をお願いします。

**〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学国際農業開発学科 志和地 弘信**  
**Fax : 03-5477-4032 E-mail : h1shiwac@nodai.ac.jp**

## 創立125周年記念事業

 2016年5月21日(土)、世田谷キャンパスにおいて、「東京農業大学創立125周年記念式典及び祝賀会」および「第16回東京農大ホームカミングデー」が同時開催されました。記念式典には、秋篠宮文仁親王殿下の御臨席を賜り、国内外の御来賓200余名と多くの卒業生、約800余名の関係者の皆さんに御出席いただき、盛大に執り行われました。式典終了後、アリーナなどで行われた祝賀会には、1300余名の方々がご出席いただき、親交を深められました。

次回ホームカミングデーの日程は未定です。ホームページにてご確認をお願い申し上げます。

## 国際農業開発学科の動静

2015年度の本学科(杉原たまえ学科長、真田篤史主事)の動静は以下の通りである。

2015年		9月	18日 編入学試験
3月	20日 2014年度卒業式(卒業者177名)		21日 後学期授業開始
4月	2日 2015年度入学式(入学者166名)	10月	1日~2日 第15回世界学生サミット 「新世紀の食と農と環境を考える」を 東京農業大学世田谷キャンパスにて開催
	6日~7日 新入生学外オリエンテーション (神奈川県立足柄ふれあいの村)		8日~14日 農業開発実習 (第3班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生36名、引率:中西康博教授)
	8日 前学期授業開始		30日~11月1日 収穫祭
	9日~15日 農業開発実習 (第1班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、学生41名、 引率:入江憲治教授)		31日 拓友会第56期総会、懇親会
	6日 教育懇談会		11月 3日 体育祭
6月	9日~15日 農業開発実習 (第2班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、学生39名、 引率:中曾根勝重准教授)	12月	29日~1月6日 冬季休業
	20日 ホームカミングデー		2016年
	11日~12日 地方教育懇談会		1月 5日 後期授業再開
7月	26日 高校生向けワークショップ 「ひらめきときめきサイエンス—ようこそ大学の研究室へ」		25日~29日 後学期定期試験
	27日~31日 前学期定期試験		29日 卒業論文提出締め切り
	2日~3日 キャンパス見学会		31日~2月6日 農業開発実習 (第4班、東京農大宮古亜熱帯農場にて、学生38名、 引率:樺村修生教授)
8月	4日~9月18日 夏季休業	3月	20日 卒業式
	31日~9月4日 農業総合実習(1年生、伊勢原農場にて)		

## 2015年度東京農業大学国際農業開発学科・卒業論文 拓友会賞優秀論文

フィリピンのイロイロ市カラフナンごみ投棄場および  
養豚場における環境汚染による住民の健康への影響  
に関する研究

健康科学研究室 木村 成美  
指導教員 榎村 修生

上記論文は、フィリピンの開発途上地域における経済的に貧困な状態の中で、家計をささえるために必死働く住民の健康問題をとりあげた非常に興味ある研究であります。フィリピン・イロイロ市の貧困地域カラフナンごみ投棄場および養豚場の周辺は、大気汚染、河川と飲料水の水質汚染が進んでいると言われております。しかし、その実態を調査した報告はなく、本論文ではその地域の汚染状態を初めて明らかにしました。本研究では、とくに河川と飲料水の水質汚染が深刻であることを明らかにしました。

また、本研究では、ただ単に環境汚染の実態を明らかにするにとどまらず、その周辺の住民に対する健康障害の実態も時間をかけてアンケート調査しました。その健

康障害と汚染状態の関連性、健康障害の居住地域差、健康障害とごみ投棄場における労働年数との関連性等々、住民における健康に及ぼす原因を論理的に探求してきました。

この研究の執筆者である木村成美さんは、国際農業開発学科に入学した当初から、NPO団体スタディーツアーを通じてフィリピンのこの地域へ何度も出向き、ごみ投棄場で働くwaste-pickerの子どもたちともふれあい、この地域の住民に対して自分がなにか貢献できるのではないかと模索してきました。その中で、3年生から健康科学研究室に所属し、本論文の研究を通じて、住民に対する健康障害の軽減や予防を目指した社会貢献を選択しました。研究に当たっては、NPO団体との連携、住民とのコミュニケーション等、綿密な準備を進め、調査後も研究室に足繁く通い、論文をまとめました。

本論文の結果は、NPO団体を通じて住民に報告され、住民の健康障害の実態を通じて環境汚染の改善への取り組みに今後反映されることと思われます。

### 受賞感想と近況

健康科学研究室 木村 成美

平成27年度国際農業開発学科卒業論文において拓友会賞をいただきましたこと、とても光栄に思っています。評価してくださいました諸先生方に、この場をお借りして感謝を申し上げます。また、研究室の先生をはじめ、調査に協力してくださったNGO LOOBのスタッフのみなさま、現地住民の多くの方々等のご援助によって、本テーマで卒業論文を書き上げることができ、微力ながらも現地の問題把握のお役に立つ場を与えていただいていることを嬉しく思います。この度のことがフィリピンのスマーリーマウンテンの存在を学生やOBの方々に広く知っていただけるきっかけになればよいと願っております。

現在、私は出身である東京を離れ、コンサルタントとし

て岐阜県岐阜市の薬草栽培産地化プロジェクトに携わっています。卒業後すぐに途上国と関わる仕事に就くことも考えました。しかし、在学中に様々な国の文化に触れる中で、自分の生まれ育った国について知らないことの多さに気づかされ、まずは国内で自分の知識を広めることになりました。薬草に関する知識は全くない状態からスタートし、早いもので4ヶ月が経ちました。まだまだわからないことだらけで苦労することもありますが、開発学科で文理両面から学んだモノの見方と卒業論文を通して身についた論理的に考える思考を活かして、このプロジェクトを成功させたいです。そして行く行くはこれらの経験と強い気持ちを持って、途上国で活躍できる人材になりたいです。

また、9月にはスマーリーマウンテンに興味を持つきっかけとなった地域に4度目のホームステイへ行く予定です。このように卒業後も在学中に出会った友人、先生方、

住まい作りのトータルプランナー

宅地建物取引業 千葉県知事免許(10)第6298号

 南房商事株式会社

代表取締役 藤井 勝政(拓殖1期)

〒297-0029 千葉県茂原市高師57番地  
電話 0475(23)3251(代表)

地域一番の品揃え  
花と緑  
契約農家直送だからいつでも新鮮!!

テーブルガーデンセンター

TEL 045-935-4187(代)  
〒226-0023 横浜市神奈川区小山町  
611-3

代表取締役社長 篠原 敬一(拓殖20期)

お世話になった農家さんとの関わりも大切にしていきたいです。今回の受賞を励みにして、きっかけを与えてくれた

フィリピンのホストファミリーをはじめ、国内外の多くの方のお役に立てるよう日々努力したいと思います。

## 東京農業大学拓友会賞

### マングローブ樹種による葉中ポリフェノール量の違いと抗酸化能について

農業環境科学研究所 柴崎 航  
指導教員 中西 康博

マングローブは熱帯・亜熱帯の陸・海の境界汽水領域に成立するきわめて特殊な木本植物の一群で、その群落は、陸域から海域への過剰な土砂や栄養流出を防御するバイオフィルターとしての機能、津波や台風時の波浪などから内陸域を防御するバイオフェンスとしての機能を有し、さらにそのリターは豊かな生態系の栄養源ともなっている。加えて、海域で不足しがちな溶存鉄の供給源としてはたらきも重要な機能として認知されつつある。しかしながら、このように自然生態のみならず、人間社会にも大きく貢献するマングローブの分布面積は、1980～2005年の四半世紀に約30%が失われ、その傾向は現在も継続している。

本研究はこのような状況に対し、マングローブならびにその生態系の有する機能を広く認識し、その保全に資するための研究の一環として、マングローブ樹種であるメヒルギ *Kandelia candel*、オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza*、ヤエヤマヒルギ *Rhizophora stylosa*、マヤプシギ

*Sonneratia alba*、ヒルギダマシ *Avicennia marina* の緑葉に含まれる総ポリフェノール含有量を定量し、またDPPHラジカル消去活性ならびにABTSラジカルカチオン消去活性の評価を行うとともに、同葉の緑茶同様の嗜好性の有無を評価することを主目的とした。

その結果、上記の3実験において市販茶（商品名：「お~いお茶」）が最も高い値を示し、総ポリフェノール含有量は232mg-GAE/g、DPPHラジカル消去活性は4504 $\mu$ M/g、ABTSラジカルカチオン消去活性は2965 $\mu$ M-TE/gであったものの、*R.stylosa*の総ポリフェノール含有量とDPPHラジカル消去活性は、上記市販茶の値を100とした相対値としてそれぞれ68.7と55.8を有することを明らかにした。また、ABTSラジカルカチオン消去活性については*S.alba*が最高値を示し、同様に相対値は53.8であった。

これらの成果は、これまで希少であったマングローブ葉のポリフェノールや抗酸化機能に関する新たな知見となったとともに、その緑葉を緑茶のように嗜好品としての利用することにより経済価値を付加し、マングローブ保全のための新たなモチベーションを産出するために有益な基礎情報となるに違いない。

### 拓友会賞を受賞して

農業環境科学研究所 柴崎 航

この度は、拓友会賞を頂きありがとうございます。論文を完成させるにあたり、農業環境科学研究所の諸先生方をはじめとする先輩、同期、後輩にこの場を借りて感謝したいと思います。私が研究室に所属した当初は、マングローブに関する知識もなく分析方法も分からぬことだけでした。未熟であった自分に、参考になる論文や分析方法を教えて下さった先輩方には本当に感謝しています。

私は、「マングローブ樹種による葉中ポリフェノール量の違いと抗酸化能について」という題目で卒業論文を執筆しました。マングローブとは、熱帯・亜熱帯の汽水域に生育する樹木であり、日本国内では主に南西諸島に群生しています。

私は、マングローブ葉が緑茶同様の嗜好品としての適性を有するのかを検証することを目的として実験に取り組みました。最初は、すぐに結果を出せるだろうと思っていました。しかし、何度も実験を繰り返しても納得のいくデータ

が取れず、苦労する日々が何日も続きました。そのため、実験が成功し納得のいくデータが取れた時は、とてもうれしかったのを覚えています。私は、卒業論文を完成させるにあたって3つのことを学びました。それは、「事前準備をすること」、「何事も過程を大切にすること」、「すぐに結果を求めるなこと」です。人によって考え方は違うと思いますが、私はこの3つを意識して何事にも取り組んでいきたいと思います。

現在は、東京農業大学を卒業し水処理事業を営む企業で技術職として働いています。在学中に、農業・産業・生活に水は欠かせないものであると感じました。そのため、水ビジネスに関わる仕事をしたいと思うようになりました。縁あって希望の企業に就職することができました。仕事内容は、機器の設計を行うデスクワークだけでなく、工場や浄水場などの現場に赴くことが多いです。大学時代に学んでいた農学とは少し違う道かもしれません。しかし、生活や農業を行なう上で必要不可欠なものに携わっているという点で、非常にやりがいを感じています。

大学で学んだ事と仕事の内容が結びつかない人も多

いと思います。しかし、4年間の大学生活で得た知識・経験・人との繋がりというのは、非常に意味のある大切なものです。また、知識や経験に無駄なんてもの

はないと思います。これから多くのことを吸収し、社会に貢献していきたいと思います。

## 箱根路復活に向けて

健康科学研究室4年 鳩山 泰成

松葉緑の櫻に憧れ、農友会陸上競技部男子長距離ブロックに入部してから、早いもので3年が経ちました。1年次の箱根駅伝予選会はトップ通過で本戦出場を果たしましたが、惜しくも10位までのシード権には届きませんでした。そして2年次、3年次は予選会での敗退が続いています。昨年の予選会後からは、最上級生として副主将にも任命され、最後の箱根駅伝への挑戦が再スタートしています。

私自身、ここまで競技生活はとても順調と言えるものではありませんでした。1年次の箱根駅伝では、登録メンバーである16名に選ばれたものの、当日走る10名には選ばれず、補欠として選手のサポートをする側に回りました。その後は故障等に悩まされ、思うような走りができず、一度も箱根駅伝予選会や関東インカレといった公式戦に出場することができていません。そんな私が副主将でいいのだろうか?私よりも適任な選手がいるのではないか?そう思うことも多々ありました。しかし、選んで頂いたからには投げ出したくない、チームのためにできることを確実にこなしていくと想い、現在も生活しています。

私たちの学年は、入学当初から『弱い』と言われ続けてきました。正直、その周りからの評価は否定できません。予選会トップ通過を果たした3年前から比べると、競技力は確実に劣ります。箱根駅伝の経験者も、現在のチームには1人もいません。だからこそチームワークが本当に大

切になってくると思います。これから、夏合宿を通して心身共に鍛えられていきます。苦しいこともあります。主力だけでなく、チーム全体で支え合って苦しい夏を越えていきます。1人1人が自分の役割を果たせれば、絶対に箱根駅伝に出場できると思っています。

そして10月15日に立川市の昭和記念公園で行われる箱根駅伝予選会で、本戦出場を果たし、笑顔で『青山はとり』を踊りたいと思います。



2016年8月 合宿先にて

## 文部科学省 平成27年度「大学の世界展開力強化事業」(中南米との大学間交流形成支援)に本学の取組みが採択されました

本学が単独申請した構想名「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業」が採択されました。

本取組みは、中南米における持続的な食料生産をめざす起業家、食農・環境問題の実践的な専門家を育成するために、中南米の協定校からの交換留学生の受け入れ数を倍増させるとともに、今まで以上に多くの本学学生を協定校へ派遣し、実学主義に基づく実践的な教育として中南米と日本で相互に農学系インターンシッププログラムを実施するものです。

特に、協定校の学生を本学のベンチャー企業に受け入れて先端的な食料・農業・環境教育を行うと共に、

本学からは中南米で卒業生が経営する農園および加工場に学生を派遣してインターンシッププログラムを実施します。この事業は5年間継続です。



## 国際農業開発学科 学生の活躍 (学年は当時)

### 農友会自動車部 平成27年度全日本学生ジムカーナ選手権大会

結果：女子団体優勝 河内桃子(開発3年) 女子団体優勝

日時：2015年8月24日

場所：鈴鹿サーキット(三重県)

### 農友会自動車部 平成27年度関東学生対抗軽自動車6時間耐久レース

結果：東京農業大学だいこんチーム 準優勝 河内桃子(開発3年) 準優勝

日時：2015年10月12日

場所：スポーツランド信州(長野県)



トロフィーを手にしているのが河内さん



アジアトライアスロンにて次世代代表のJr優勝者、U23優勝者、既にエリートカテゴリーで活躍する選手4人のメンバーと 左から2番目 福岡さん

### アジアトライアスロン選手権大会

結果：U23カテゴリー優勝 日時：2016年4月27日 場所：広島県廿日市市

### 2015年全日本学生トライアスロン選手権観音寺大会

結果：福岡啓(開発3年 湘南ベルマーレトライアスロンチーム)優勝

日時：2015年8月30日 場所：香川県観音寺市

### ASTCアジアトライアスロン選手権 U23女子

結果：福岡啓(開発3年 湘南ベルマーレトライアスロンチーム)準優勝

日時：2015年6月12日 場所：チャイニーズタイペイ・ニュータイペイ

今後の予定として10月2日『国民体育大会』、10月9日に日本最大の試合『日本選手権』があります。応援をよろしくお願ひいたします。

### 第63回 全国選抜大学・実業団相撲刈谷大会

結果：楮佐古明輝(開発4年)

個人優勝

日程：2015年9月13日(日)

場所：愛知県刈谷市(刈谷市

体育館特設相撲場)



### 第40回 全国学生相撲個人体重別選手権大会

結果：志賀裕人(開発1年)

75kg未満級 準優勝

日時：2015年9月20日(日)

場所：靖国神社



### 学会 International Conference on Polyphenols

結果：檜谷 昇(国際農業

開発学専攻2年)

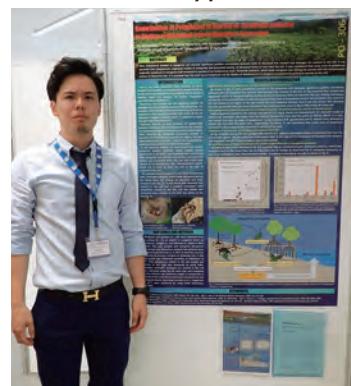
ポスター賞受賞

日時：2016年7月11日

～15日

場所：オーストリア

ウィーン工科大学



\*受賞したポスター題目：

Contribution of Polyphenol in Excreta of *Terebralia palustris* to Elution of Dissolved Iron in Mangrove Ecosystem



株式会社 ムラカミ シード  
MURAKAMI SEED CO.,LTD

本 社

〒309-1738 茨城県笠間市大田町341

TEL 0296-77-0354 (代) FAX 0296-77-1295

<http://www.murakami-seed.com>

#### ムラカミシード水戸研究農場

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵九ノ割5986

TEL 029-259-6332 (代) FAX 029-259-6226

代表取締役会長 村上典男(拓殖23期)

#### ガーデンショップ花みどり本店

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵九ノ割5986

TEL 029-259-6332 FAX 029-259-6226

村上 登(拓殖26期)

村上 忠義(拓殖29期)

## 新任教員紹介

農業環境科学研究室 田中 信行

2016年4月から嘱託教授として国際農業開発学科に加わりました田中信行です。環境科学研究室に所属し、学部の熱帯植物生態学や大学院の農業環境科学特論などの授業を担当します。両親は佐賀県と宮城県出身ですが、私は千葉県育ち。趣味は、登山、ガーデニング、テニス。

学生時代は東京農工大学・東京大学大学院で環境・生態学・育林学などを学び、1984年に農林水産省林業試験場(現森林総合研究所)に就職、1987年~1990年代は熱帯農業研究センター(現JIRCAS)やJICAを通して熱帯荒廃地の回復や熱帯造林を研究、1993年からは国内研究(小笠原の外来種の制御と自然再生、気候温暖化の森林への影響評価と適応策)も行ってきました。この間、いろいろな機会を通して、国内はもとより、海外の森林生態系を調査・観察してきました。アジアではフィリピン、タイ、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、ベトナム、インド、ネパール、ブータン、中国の雲南・河北を、ブラジルのアマゾン、ヨーロッパのエストニア、ドイツ、旧チェコスロバキア、イタリア、ギリシャ、極東ロシア、アメリカ合衆国、南アフリカ、ニュージーランドなどを訪問しました。植物生態学の知識があれば、世界各地で見られる多様な植物群落が、歴史と気候・地質との関係性や、普遍性と土着性が理解でき、面白いです。そして、各地の自然環境に対応した持続可能な利用のための技術開発が研究の目標です。

現在進めている研究は、気候温暖化の影響評価と適応策(環境省予算、科研費)です。国内では、モデルを用いた植物の分布変化予測と、現地の植生調査による温暖化影響検出を行っています。同様のことを、欧米に比べこの分野の研究の少ない東アジアでも進めています。そのために中国の北京大学や雲南大学、台湾の国立台湾大学、韓国の国立樹木園や生物資源研究所、ロシア・ウラジオストクの植物研究所の研究者と交流しています。

教育活動面では、筑波大学の森林科学の非常勤講師を務めたほか、博士論文審査員(筑波大、横浜国大、東京農大)や卒論・修論・博論の指導、JICA研修生や林務技術者への講師などを経験しました。

経験を生かして、社会貢献もさせていただいている。例えば、小笠原諸島世界遺産科学委員会(写真)、白神山地世界遺産科学委員会など各種委員会の委員を現在も務めています。「少年老い易く学成り難し」は、今の実感です。これまでに手を付けたテーマの研究成果をまとめてことと、これまでの経験を学生に伝えていくことが私の重要な課題です。



2010年に小笠原諸島の世界遺産登録推薦時に来日した国際自然保護連合IUCN専門家に現地で説明した筆者(右)。

熱帯作物学研究室 斎藤 修平

2016年4月より国際農業開発学科・熱帯作物学研究室に助手として着任いたしました。2013年に国際農業開発学専攻を終了いたしまして、2016年1月まで青年海外協力隊の野菜隊員としてパラグアイで仕事をしていました。パラグアイでは、日系移住地であるピラポ市役所に配

属され、学校菜園・家庭菜園の普及や野菜販売農家の育成を行ってきました。任地が日系移住地であったので、日系人たちの協力もあり良い活動ができました。彼らはよそ者の私を暖かく迎え入れてくれ、私と彼らは生涯の友人になれたと思います。また、パラグアイには校友会支部もあり、多くの卒業生が農業分野で活躍しています。そのため、卒業生の皆さんからも私の活動に多大なる協力を

**農大市場**

# 株式会社メルカード東京農大

カムカムを主力とした  
農大商品、農大OB商品を販売

〒156-8502  
東京都世田谷区桜丘1-1-1  
東京農業大学11号館1階  
TEL:03-5477-2250  
FAX:03-5477-2251  
Web:<http://ichiba-n.co.jp>

メルカード  
東京農大

いただきました。しかし、協力隊として活動を行っていくなかで、海外で仕事をするために、自分には足りない技術や知識が沢山あることを痛感いたしました。

私は10年間の学生時代に多くの海外調査や海外留学の機会をいただきました。海外調査はベトナムで合計12回、タイで5回、ブラジルで1回行わせていただきました。また、これまでにタイ・タマサート大学に4ヶ月間、アメリカ合衆国・ミシガン州立大学に9ヶ月間留学させていただきました。これらの多くは研究室や学科、専攻、大学が私にチャンスをくださったことにより実現したものです。このような学生時代の海外経験の中で学術的な知識もさることながら、国際人としての素養を磨かせていただいたと思います。

教員となった今、これまでに培った知識や経験を学生たちに伝えていきたいと考えています。そして、学生たちにはグローバル人材として世界に羽ばたいてもらいたいと願っています。とはいっても、私自身も若輩者でこれから多くのことを学ばなければいけません。学生たちと共に成長したいと思います。また、卒業生の皆さんにはおかげましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



バラナ川にて

## 開発学科統一本部収穫祭及び体育祭

国際農業開発学科統一本部委員長 3年 谷口 智彦

前年度、国際農業開発学科統一本部の収穫祭及び体育祭の結果報告をさせていただきます。

まず体育祭の方から報告させていただきますが、競技の部第3位、パネルの部 第11位、応援の部 第3位、総合第6位でした。今年はパネルの部では第11位、また毎年優勝を勝ち取ってきた競技の部で第3位と悔しい結果になりましたが、応援の部では第3位と大躍進することができました。

競技の部では、雨による順延のため種目数を縮小しての開催になりましたが、非常に多くの1年生、研究室・関連団体、運動部、そして先生方に協力していただきました。

応援は1ヶ月前から練習を重ねてきました。開発学科は昨年度から他学科と同じく5分間の演技をすることになりました。インド音楽を用いた踊りは審査委員の方に非常に好評で、栄養学科や造園学科をさしおいて3位という結果を残すことが出来ました。全学科の応援終了後には開発学科主導で乱入を行い、全学科統一本部の役員全員が祭りのように楽しむことが出来ました。この様子は <https://youtu.be/f-V9axcopO8> でご覧頂けます。

続きまして、パネルや御輿の報告をさせていただきます。僕たちは1ヶ月以上前からパネルや御輿の作成をしてき

ました。御輿は毎年恒例の稻の藁を使い、歌舞伎をテーマにしたゴリラを作成しました。御輿担当の者が中心となり、電動のこぎりなど危険な作業は2、3年生が、また藁を束ねる作業などは1年生も協力してくれました。年々大きさなどの規格が厳しくなってきておりますが、開発学科らしい迫力ある立派なゴリラを作ってくれました。御輿は収穫祭期間中に展示するだけではなく、10月中旬に行う経堂パレードで御輿を担いで農大通りを練り歩きました。多くの人に見ていただき収穫祭の宣伝をすることができました。収穫祭投票では第10位と振るいませんでしたが、経堂パレード投票では準優勝を勝ち取ることが出来ました。

パネルでも昨年は歌舞伎をテーマにゴリラを描きました。迫力ある、そして美しい歌舞伎をうまく表現した作品になりました。

また、ステージ企画、後夜祭、経堂門装飾にも開発学科統一本部は携わっています。

今年度の収穫祭及び体育祭は、経堂門装飾の棟梁が開発学科から出るなど私たち3年生が中心となって運営していくことになります。まだまだ未熟者ではありますが、1,2,3年生力を合わせ全力で取り組んでいきます。

是非、収穫祭に足を運んでみてください。

**T** 株式会社東京アグリビジネス

TOKYO AGRIBUSINESS CO., LTD.  
緑地防除管理・請負メンテナンス・資材販売

代表取締役社長 野瀬 忠  
(昭和52年 拓殖18期)

〒252-0302 神奈川県相模原市南区上鶴間2-7-7

TEL 042 (744) 6237  
FAX 042 (744) 6295

農業生産法人 (株)ライフオン

**樋 口 稔**  
(拓殖 10 期)

〒059-0272 北海道伊達市北黄金町 119-47  
〒181-0004 東京都三鷹市新川 3-15-12  
Tel:0422-48-8976  
Mobile:090-3203-4950

## 拓友会 第32号 2016年9月30日号

### 第56期 一般会計収支決算

(平成26年10月1日~平成27年9月30日)

#### 一般会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 会費	1,980,000	1,560,000	▲ 420,000
卒業生	1,880,000	1,520,000	▲ 360,000
既卒者	100,000	40,000	▲ 60,000
2. 事業	480,000	424,000	▲ 56,000
ニュース広告	300,000	250,000	▲ 50,000
行事等収入	180,000	174,000	▲ 6,000
3. 寄付金等雑収入	100,000	38,000	▲ 62,000
4. 前年度繰越	180,238	180,238	0
合計	2,740,238	2,202,238	▲ 538,000

支出の部	予算	決算	差異
1. 事業支出	1,180,000	1,114,833	▲ 65,167
総会費	180,000	183,380	3,380
新入会員歓迎会費	200,000	200,000	0
名簿整備	100,000	100,000	0
ニュース発行	400,000	411,453	11,453
拓友会賞	100,000	40,000	▲ 60,000
在校生への補助	200,000	180,000	▲ 20,000
2. 管理費	1,050,000	826,540	▲ 223,460
会議費	100,000	89,536	▲ 10,464
印刷費	100,000	378	▲ 99,622
交通費	50,000	38,000	▲ 12,000
通信費	500,000	458,846	▲ 41,154
消耗品費	100,000	97,880	▲ 2,120
雑給費	100,000	100,000	0
雑費	100,000	41,900	▲ 58,100
3. 特別会計積立金	200,000	100,000	▲ 100,000
4. 予備費	310,238	120,000	▲ 190,238
5. 次年度繰越金	0	40,865	40,865
合計	2,740,238	2,202,238	▲ 538,000

#### 特別会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 前年度繰越	2,224,757	2,224,757	0
2. 一般会計より繰入	200,000	100,000	▲ 100,000
3. 雑収入	500	140	▲ 360
合計	2,425,257	2,324,897	▲ 100,360

支出の部	予算	決算	差異
1. 次年度繰越金	2,425,257	2,324,897	▲ 100,360
合計	2,425,257	2,324,897	▲ 100,360

### 第57期 一般会計収支予算

(平成27年10月1日~平成28年9月30日)

#### 一般会計

収入の部	第56期	第57期	差異
1. 会費	1,980,000	1,800,000	▲ 180,000
卒業生	1,880,000	1,750,000	▲ 130,000
既卒者	100,000	50,000	▲ 50,000
2. 事業	480,000	430,000	▲ 50,000
ニュース広告	300,000	250,000	▲ 50,000
行事等収入	180,000	180,000	0
3. 寄付金等雑収入	100,000	50,000	▲ 50,000
4. 前年度繰越	180,238	40,865	▲ 139,373
合計	2,740,238	2,320,865	▲ 419,373

支出の部	第56期	第57期	差異
1. 事業支出	1,180,000	1,200,000	20,000
総会費	180,000	180,000	0
新入会員歓迎会費	200,000	200,000	0
名簿整備	100,000	100,000	0
ニュース発行	400,000	420,000	20,000
拓友会賞	100,000	100,000	0
在校生への補助	200,000	200,000	0
2. 管理費	1,050,000	900,000	▲ 150,000
会議費	100,000	100,000	0
印刷費	100,000	20,000	▲ 80,000
交通費	50,000	50,000	0
通信費	500,000	500,000	0
消耗品費	100,000	100,000	0
雑給費	100,000	100,000	0
雑費	100,000	30,000	▲ 70,000
3. 特別会計積立金	200,000	100,000	▲ 100,000
4. 予備費	310,238	120,865	▲ 189,373
合計	2,740,238	2,320,865	▲ 419,373

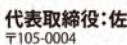
#### 特別会計

収入の部	第56期	第57期	差異
1. 前年度繰越	2,224,757	2,324,897	100,140
2. 一般会計より繰入	200,000	100,000	▲ 100,000
3. 雑収入	500	350	▲ 150
合計	2,425,257	2,425,247	▲ 10

支出の部	第56期	第57期	差異
1. 次年度繰越金	2,425,257	2,425,247	▲ 10
合計	2,425,257	2,425,247	▲ 10

観光庁長官登録旅行業第1835号 IATA(国際航空運送協会)公認代理店  
(社)日本旅行業協会正会員 社団法人海外ツアーオペレーター協会正会員

ふれあいの旅を演出する (株)アルファインテル南米交流



代表取締役:佐藤 貞茂 (拓殖15期)  
〒105-0004 東京都港区新橋3-8-6 大新ビル3階  
電話:03-5473-0541 FAX:03-5473-0540  
ホームページ: www.alfainter.co.jp  
メールアドレス: info@alfainter.co.jp  
平日9:30~18:30 土曜日9:00~12:00  
日・祝日は休み




東京都知事登録旅行業第3-5792号

**KIX**

キックス・エアー・チケット  
株式会社 キックス

代表取締役 塩満 仁  
〒187-0003 東京都小平市花小金井南町2-17-2-603  
Tel 042-458-1180 Fax 042-458-1180  
携帯 090-1761-0970  
E-mail shiomitu@bird.ocn.ne.jp  
E-mail info@kix-j.co.jp

<http://www.kixairticket.com>

## 著書紹介



板垣啓四郎監修(2015)  
『農家と農業 お米と野菜の秘密』  
実業之日本社 191p 800円  
ISBN:9784408111629

本書は、わが国の食料・農業・農村・農家に関わるトピックスを、一般読者向けにカジュアルにまとめたものです。内容はトピックごとの読み物になっており、大変読みやすく工夫してあります。例えば、「スーパー・マーケットの売り場はなぜ野菜からはじまるの?」とか「外食の原材料、国産品の割合は?」など、ごく身近な話題を拾い集めたものです。

私たちが普段何気なく食べている農産物や食品を、あらためて消費、流通、食品加工、農業生産のつながりのなかでみていきますと、「こんなこと今まで知らなかった」「そういうことだったんだ」など、新しい発見が次から次へと出てきます。むずかしくいと、食と農に関する「知の探求」です。

私も、いつかそういう本をまとめたかったので、実際に執筆したわけではありませんが、監修という立場で、本の構成や執筆した内容を私なりにチェックさせていただきました。私自身も知らなかったことが多く、大変よい学びの機会になりました。

本書は6章の構成になっています。「第1章 毎日食べている米、野菜、果実の不思議」「第2章 農産物が私たちの口に入るまで」「第3章 米、野菜、果実を栽培する農業の現場」「第4章 日本の農業をとりまく環境と未来」「第5章 今後ますます期待される、世界における日本の農業」「第6章 農業を仕事にする」。本書はどこから読んでもかまいません。トピックごとの内容の深まりは期待できませんが、話題の広さはある程度確保できたのではと思います。

途上国へ行きますと、必ず日本の食と農の現状や課題について質問されます。そういう知識や情報を身近に得るためにも、本書は役に立つのではと思います。本書が卒業生や在校生にとって有益であれば、監修者としては大きな喜びです。

## 食と農の博物館

### 現在開催中の企画展示

- 東京農業大学創立125周年記念**  
**ピーター・メンツェル&フェイス・ダルージオ**  
**地球の記録20年の写真展**  
**「しあわせのものさし**  
**—持続可能な地球環境を求めて—」**  
【会期】2016年6月1日(水)~9月25日(日)  
【休館日】毎週月曜日、月曜が祝日の場合は開館し翌火曜休館  
【会場】東京農業大学「食と農」の博物館 1階企画展示室  
【入場料】無料  
【主催】東京農業大学「食と農」の博物館、  
「しあわせのものさし」特別展示実行委員会  
【企画】東京農業大学「食と農」の博物館  
【後援】特定非営利活動法人 国連UNHCR協会、  
特定非営利活動法人 国連WFP協会

### 今後開催予定の企画展示

- 東京農業大学農学部3学科合同展(仮題)**  
【会期】2016年10月12日(水)~2017年3月12日(日)  
【主催・企画】東京農業大学農学部

- 東京高等農学校初代校長 田中芳男 没後100周年記念企画展 「東京農大、その実学の源流—農学者田中芳男から探る」**

- 【会期】2016年10月12日(水)~2017年3月12日(日)  
【主催・企画】「食と農」の博物館  
【協力】学術情報課程

### その他

博物館1階ロビーおよび2階にて常設展示を行っています。  
開館等に関する情報はホームページでもご覧いただけます。

2007年から国際農業開発学科を志望する中高生向けに学科を分かりやすく紹介するホームページ (<http://www.nodai.ac.jp/int/develop/index.html>) を公開しました。

海外実習や国内(学内・学外)実習、教員・学生の調査の様子、研究の様子について学部生・院生・教員からの投稿記事を随時掲載中。[\(http://nodai.cc-town.net/modules/nmblog/categories.php\)](http://nodai.cc-town.net/modules/nmblog/categories.php)。

国際協力を志すご子弟や教え子の進学先を考えていらっしゃる方、是非一度アクセスを。

## 農業開発政策研究室

農業開発政策研究室 4年 片岡 美紀

私たち農業開発政策研究室は、国内外の農村地域における経済・社会・文化構造、農業・農村社会の特徴、農村生活の実態についての調査・研究を行っています。特に農業・農村開発における村落共同体・農村諸組織・人的ネットワークなどの役割に注目しています。理論的な研究だけではなく、国外・国内の農村現場を訪問し、農家や農業関係機関の方々から直接お話をうかがうことを積極的に行ってています。その中から自らの研究テーマを発見し、掘り下げていくことを重視しています。

年間通した定例活動として、室員会議、グループゼミ(研究班)、昼食会を毎週行うとともに、フィールド調査、合同研修も定期的に実施しています。また今年も世田谷区内の体験農園の畑をお借りし、野菜作りに挑戦しています。

### 【現在の学生数】

大学院生 1名 (アフガニスタンからの留学生)  
4年生 14名 (うち2名が海外留学中)  
3年生 11名 (うち1名が海外留学中)  
2年生 2名

### 【研究班の構成】

研究室員は、各自の研究テーマを持つとともに、下記の研究班に所属しながらフィールド調査・研究に取り組んでいます。

#### ①担い手班

農村開発や農業の担い手について調査・研究を行っています。今年度は、主に国内の新規就農者を増加させている要因、就農までの手順や支援等について勉強しています。また、農村開発の担い手という側面から、従来開発過程の中で周辺化してきた人々(女性、高齢者、「障害者」など)の問題についても取り組んでいます。

#### ②資源班

国内外における農村にある“モノ”について調査・研究を行っています。今年度は、「動物」を資源と考え、動

物資源がもたらす社会への影響、動物資源の変貌について勉強しています。

#### ③地域共同体班

国内外における村落共同体の構造や機能について調査・研究を行っています。今年度は、外部社会からの移住者が村落共同体に与える影響について勉強を進めています。

### 【フィールド研修】

#### ①海外

昨年度は、「共有資源管理」をテーマにインドネシアにて研修を実施しました。今年度は「途上国農村における農業ビジネス」に着目しベトナムで研修を実施します。

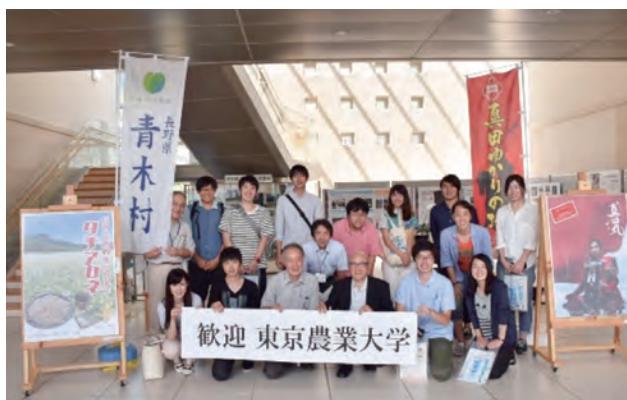
#### ②国内

今年度より、東京農業大学と包括連携協定を結んだ長野県青木村にて、フィールド研修を実施しています。現地の農家の方の下で実習をさせていただきながら、農村社会について学ばせていただいている。

### 【収穫祭】

収穫祭では毎年学術展へ出展しています。昨年度は「18億人のごはん～HALALをもっと身近に～」というテーマで調査・研究を行い、学長賞銀賞をいただきました。

今年度は「農に関わる生き方(仮)」というテーマを設定し、現在発表の準備を行っています。



## おいしさは愛。

ハム工房ぐろーばるのハム＆ソーセージは、《和豚もちぶた》を100%使用しひとつひとつ手間と時間をかけてつくれられます。

ハム工房  
ぐろーばる

〒377-0052 群馬県渋川市北橘町上箱田800  
TEL 0279-52-3746 FAX 0279-52-3581  
フリーダイヤル 0120-44-3746

クローバーリピックファーム株式会社

代表取締役 赤地 勝美（拓殖5期）  
URL <http://www.gpf.co.jp>